

高校生記者

知事に問う

8月9日、県内高校新聞部に向けて知事会見が開催された。各校新聞部員が直接知事に質問を投げかけた。

危機管理センターに県内9校から新聞部の高校生記者23名が集まった。昨年に引き続き、二度目の知事会見開催だ。本校の新聞部も参加し、いくつか質問する機会を得た。会見では、各

知事 地域の未来を守る



保育士の本音は？ 現場の声に迫る



会見中の三日月知事

滋賀県の支援

校から地元の環境保護や教育改革など幅広いテーマについて質問があった。それに対して知事が真摯に答え、次世代への期待と責任感を強調した。特に、環境や教育についての質問には、知事が中高生対象の体験実習などを行い、若い世代が地域に根ざして活躍するための支援を強化する等の具体的な見解を示してくれた。

保育士の仕事は責任が重く業務量も多いが、収入が割に合わないという離職したり、新たに保育士になろうという人も減ってきている。それに対して、県は中高生に向けて保育士体験や講演会などを実施し、少しでも保育関係職に興味を持ってもらいたいと考えている。その上で保育士の給料をアップし、保育士が豊かに暮らせる社会を目指している。また、保育士と同様に小中高の教師の数も減少し、長時間労働や低収入で辞めてしまう人が後を絶たない。そのため、保育士と同様に教師を目指す人が増えるように、県は中高生対象の実習体験や講演などを行っている。

未来を惑わせる 少子化

日本では、全国的な少子化が進んでおり、厚生労働省が発表した2024年度の出生数は約72万人となっている。これは前年度に引き続き4万人も減少し、過去最低を更新した。その他にも、若者が都心に集中することも見込まれており、県として



保育士をやるうえで思うこと

初めに「お仕事をする中で特に難しいと感じる場面はどのような時ですか？」と伺うと森口さんは「幼児数は減っているが個性がみな違うので、一人一人に適した対応をしてあげるところが難しい。子供たちにとって初めての集団環境の幼稚園が、楽しいと思える場所

現場の本音はどうだろうか。知事の質疑応答を踏まえ対策と現場の本音を確かめるため、近江八幡市にある『金田幼稚園』に取材に伺った。取材では、ベテラン保育士の森口さんとフレッシュ保育士の今西さんが応じてくれた。



県 担当の方にお話を聞く

になってももらいたい」と答えてくれた。次に「保育の仕事でやりがいを感じる瞬間はどんな時ですか？」と伺うと、今西さんは「私は、3歳児の担任をしていた子たちが5歳児になって出会うと、以前は出来なかったことが出来るようになったりだとか、前までは泣いたり怒ったりしてその理由がわからないことがあったけれども、5歳になり「あの子が何々をしているから怒ってる」など子供たちが頑張ってる理由を言葉で教えてくれるようになった。そんな風に子供の成長を見る瞬間。家ではあまり見せない様子やエピソードを保護者の人に伝えてお家の方々に喜んでもらえる瞬間にやりがいを感じられる」と答えてくれた。

人手不足の現状とその影響

次に「今後、幼稚園全体としてより良い環境を作るために、どのようなことが必要だとお考えですか？」と伺うと森口さんは「園が魅力ある雰囲気であるようにしている。現在、3人の教育実習生が来ており楽しく実習しています」「当然、子供たちの命を預かっているので、労力にみあった賃金であるべきだと思います」と答えてくれた。最後に「今の高校生に興味を持つてもらうためには、どのようなことをしたら良いと思いますか？」と伺うと森口さんは「コロナ禍に限らず、最近では高校生対象の体験実習が少なくなっています。そんな中、八幡中学



にこやかに 左から 今西さん 森口さん

校の生徒さんが来てくれました。体験を終えた生徒さんは「普段やらない遊びを子供たちと一緒にして楽しい」と答えてくれた。こうした子どもと触れ合う体験で、興味を持ってくれた生徒さんが保育士を目指してくれたらうれしいです。皆さんも保育体験だけでなく、意外なものに心が動く経験をして、楽しかった記憶を呼び戻すなど身近なところから童心にかえってほしい」「園全体としては現在、職員数が減っており、休みづらい環境になっていきます。なので、休んだ時に補える人がいて、休んだ人が復帰しやすい環境になってほしいです」と答えてくれた。知事も課題としている人材不足と低賃金は幼稚園で働いている保育士も変えてほしいと願っているものだった。保育士の仕事は子供たちの未来を育むという使命感と、その中で得られる「やりがい」が大きな魅力だ。子供たちの未来に貢献する保育士という職業をあなたも選んでみてはどうだろうか。(澤)